

基礎演習 A

# 日本人女性の選択

学籍番号 : W13

現在、日本は多くの問題を抱えている。例えば、高齢者社会、地球温暖化、また原発問題などが挙げられる。それらの問題を国民の多くが、日々ニュースや新聞などで目にしているだろう。その多くの問題の中には、もちろん少子化も存在する。現代の日本の出生率は著しく低下している。その原因の一つとして、近代の家庭の形が大きく変容しているということが挙げられる。共働きの夫婦の場合、仕事の優先や二人の生活のために、結婚してもあえて子供を作らない夫婦がいる。一方で、子供が欲しくても、身体的な問題や金銭的な問題で、子供を作ることができない夫婦もいる。しかし、理由はこれだけではないはずだ。現代の女性たちの未婚化や晩婚化も、少子化の大きな原因の一つであると思われる。現在の日本では、結婚適齢期の年齢が年々上がっていて、女性たちがどんどん結婚から遠ざかった存在になっている。その理由はいったい何なのだろうか？今回のレポートで、私はその疑問について考察してみようと思う。

女性たちの未婚化や晩婚化の大きな原因は、彼女たちの社会進出や就職率の増加が大きく関係しているのではないかと考える。昔の日本の家庭では、男性が外で仕事をしてお金を稼ぎ、女性はそんな夫を影から支え、家で家事や子育てをするというのが一般的だった。筒井淳也によると、「かつては多くの場合、結婚をしない人生とは異常な人生だと考えられていた。しかし今は違う。結婚は幸福の条件というより、幸福の1つの手段になった」（三輪，2010，第6章）とある。確かに、昔に比べると、最近では独身女

性が増え、女性たちが“結婚しなければならない”という概念を持つことは少ないかもしれない。また、結婚はまったく意識せず、仕事で成功することが幸福の条件である、と考えるキャリアウーマンも少なくないだろう。

文部科学省の平成 20 年度のデータによると、その年の女性の大学進学率は全体の 42.6%で、男性は全体の 55.2%だった。やはり、進学率は男性の方が少し上回っている。しかし、私が注目してほしいのは、大学卒業者に占める就職者の割合である。女性の割合は 75%で、男性の割合は 65%だった。つまり、大学に進学して、卒業後に就職する割合は女性の方が上回っているのだ。女性の進学率は男性に年々迫っていて、もはや追い越す勢いである。そして、卒業後の将来を見据えて、短期大学や大学に進学する女性たちが増加していることにより、女性の労働に対する意識はどんどん強くなっている。その結果、男性よりも多い割合で女性が就職し、社会進出するケースが多くなったと考えられる。

しかし、男性と女性との間には、格差がどうしても存在する。それは主に、仕事上の地位や給料の格差である。そんな中、内閣府では、1999（平成 11）年に、男女共同参画社会基本法を公布、施行した。内閣府男女共同参画局によると、男女共同参画社会とは、少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等我が国の社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことである。この

ような法律が施行されたことで、女性たちが働きやすい社会が形成され、社会進出はますます増加した。これにより、結婚して家庭を築くことよりも、いい大学に進学し、自分の就きたい仕事で成功することを選ぶ女性が目立つようになり、どんどん結婚から遠ざかったのではないかと考える。

さて、今回私は、「結婚と仕事に対する意識調査」を行うために、アンケートを実施してみることにした。調査の対象は10代から40代の日本人女性で、特にその中でもこれからの日本を担う、10代の女性に対して重点的に実施することにした。答えてくれた10人はいずれも未婚者である。質問内容は以下の通りである。

1. 結婚願望はあるか、ないか
2. その理由はなにか
3. もし結婚した場合、仕事と家庭を両立するか

まず、1の質問に対して「結婚願望がある」と答えたのは4人である。理由として、「好きな人と一生一緒にいたい」と答えた人がいた。この理由は、結婚するときのきっかけとして、一番多いものではないだろうか。また、「働きたくないため、家庭に入って専業主婦をしたい」と答えた人もいた。そんな中、一番多かった理由は「子供を産みたい」だった。やはり女性にとって、子供を産むことは、世代が違っても本能的に求める願望であるようだ。

一方、「結婚願望がない」と答えた残りの6人は、「結婚することによって、一人の時

間が奪われるのが嫌だ」や「一生働きたい」、「仕事の休みが不定期的のため、仕事と家庭との両立ができない」などの理由が挙げられた。「結婚願望がない」と答えた人たちは、仕事や趣味などの自分の時間を大切にしたい、社会的に自立したいと思っている人が多い、という印象を受けた。

次に、3の質問については、「両立する」という答えが多かった。「自分の好きなことを続けたいし、個人を尊重し合いたい」という理由である。また、「結婚してすぐは仕事を続けて、子供ができたなら産休をとる」という意見もあった。

この産休制度は、現在、大変注目されていて、安倍晋三首相が今行っている、“アベノミクス”という経済政策の中で、子供が最長で1歳半になるまで認められている育児休業を3歳まで延ばし、5年間で待機児童ゼロをめざす方針を決めた。これは、少子高齢化に伴う労働力人口の減少を防止するための政策である。待機児童とは、保育に欠けるため、保育所入所申請をしているにもかかわらず、希望する保育所が満員である等の理由で保育所に入所できない状態にある児童をいう。仕事と子育ての両立に悩む家庭には朗報と言えるだろう。育児休業期間が延び、給付も広がれば、育児のゆとりは増える。待機児童問題で子どもを保育所に預けるタイミングを待つ家庭にとっては選択肢が増えるという利点もある。政府は今後、産業競争力会議（議長・安倍首相）で議論し、成長戦略に織り込む方針であり、2014年度の導入を目指している。

この政策の導入が実現すれば、女性たちが結婚してから仕事を続けることに、不安を

抱くことが少なくなると考えられる。きっと、今後の結婚率も増加するだろう。

3 の質問の回答の中で、私が気になった意見として、「自分の欲しいものを夫の給料から出してもらうのが、自由にお金を使えない感じがして気を使う。だから、自分でお金を稼ぎたい」というものがあった。確かに、すべてのお金を夫に出してもらうのは、いくら夫婦だからといっても、気を使ってしまうかもしれない。結婚願望の有無は関係なく、これを答えている人が多かった。

調査の結果から、最近の女性たちは自分の時間を大切にしたい傾向が強いように感じた。ちゃんと一個人として自立して、自分の好きなこと（仕事も含む）をしたいと思う女性が多いのだろう。そのため、結婚してパートナーと共に暮らすことが億劫になっているのかもしれない。また、結婚してから、給料の上下関係がそのまま、家庭内での関係につながることもあるだろう。そのことで、今まで仕事上の男女の格差を意識していなかった女性たちも、意識するようになってしまうのではないか。男女間の平等を求める声に、暮らしやすい国づくりをめざす政府が答えることにより、男女の区別をなくそうとする風潮が広がっていく。それがますます女性たちの社会進出につながり、現代の未婚化と晩婚化が進んでいっているのではないだろうか。(3059 字)

## 参考文献リスト

✓ 三輪哲／井村寿人（2010）『結婚の壁 非婚・晩婚の構造』勁草書房

✓ 内閣府男女共同参画局

[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/law/kihon/9906kihonhou.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/law/kihon/9906kihonhou.html)

✓ 日本経済新聞

<http://www.nikkei.com/>

✓ ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>